

(12) 経営工学教育FD/IT活用研究委員会

本委員会（委員長：渡辺一衛、成蹊大学）は20年6月、9月、10月、21年3月の計4回開催した。学士力の検討に際しては、カバーする範囲が広いことから最大公約数を想定し、JABEEは参考にとどめ固有の専門教養を研究、専門知識・能力の業務プロセスへの活用、人・物・金・情報の活用、倫理観や態度に専門性を生かせるかを考えることにした。そこで、①企業や組織体の活動を人、モノ、機械設備、方法の観点から調査・分析する力、②モデリング、データ解析、オペレーションズ・マネジメント等の課題の発見・構造化・解決に必要な基礎力、③マーケティング、システム設計、プロジェクト・情報システムの管理などの素養、④技術と経営の融合を図る態度の修得として整理し、インターネットで経営工学担当教員（サイバーFD研究員）110名に意見を求めたところ、11名からの意見を踏まえ、以下の通り中間的にとりまとめた。

<経営工学教育における学士力>

1. 経営資源を有効活用するために、企業や組織体の活動を科学的に調査し、分析できる。
 - ※ 品質、コスト、納期、生産性、環境、リスク、就業意欲（モラル）を考慮して、人、モノ、サービス、機械設備、方法、情報およびシステムの観点から調査・分析できる。
2. 企業や組織体の活動に関して課題の発見、課題の構造化、課題の解決に必要な基礎能力を身に付けることができる。
 - ※ モデリング、データ解析、シミュレーション、統計的手法、数理的手法およびオペレーションズ・マネジメント（工程管理、資材管理、作業管理、設備管理、品質管理、原価管理、物流管理、販売管理、情報管理、環境管理、リスク管理など）の基礎的能力を修得する。
3. 企業や組織体の活動に必要なシステムの計画、設計、運用、管理、改善の基礎知識・技能を身に付けることができる。
 - ※ マーケティング、ビジネスモデル、システムの設計、プロジェクト管理、情報システム管理についての素養を身に付ける。
4. 技術と経営およびこれらを取り巻く社会との関わりを理解し、社会的責任に配慮することができる。
 - ※ 技術者倫理と経営者倫理に基づき、技術の進歩と経営上の問題を把握して目的の達成に向けて判断し、全体を調整する意識をもつことができる。